

令和3年度 第2回大磯町総合教育会議における協議内容のまとめ

「教員の働き方改革について ～教育のデジタル化に対応するには～」

令和3年度の第2回大磯町総合教育会議では、ICTの活用により教材作成等の準備にかかる時間や労力の削減につながり、また、保護者との情報伝達においてICTの活用により効率化が図られることが期待されています。その分の時間が別のことに使えることなどから教員の働き方改革の一つとして「教員の働き方改革について ～教育のデジタル化に対応するには～」をテーマに協議を行いました。

1 協議における委員からの意見

協議における委員の皆さんからの意見は以下のとおりでした。

- スクールサポーターの導入がされており、業務内容も印刷、掲示物の手伝い、成績入力作業を複数で確認しながら、コロナ禍における消毒作業、このような形でスクールサポーターの方たちに協力いただいている。このような場面でコミュニティスクールが発足すればもっと地域の力をお借りして効率的にできるのではないかと思う。
- 業務改善、担当改善、組織風土改善の3つが働き方改革をすべきところだろうと思う。
- ある私学ではウェブ上で出退勤の管理ができる。教員にも一人1台タブレット端末が配布され、朝の打ち合わせもタブレット端末に連絡事項が配信される。ペーパーレスでありながら細かくスケジュールが確認でき情報が共有できる。また、個々の部署で入力されている試験や資格の情報を一体化させていこうという取り組みが進められている。これが実現すれば、卒業証明書、成績証明書、在学証明書、また生徒の成績も発行することができる新しい取り組みを進めている。
- 目指しているのはチーム学校による協働の校務、用務の効率化、文章や情報の共有化である。
- 今まで想像もつかなかった新しい働き方が始まる中で、新しい考え方を手に入れるにはそれ相応の能力やスキル、考え方が求められる。
- 令和元年に開校したばかりの3年目の特別支援学校は、コロナが不幸と思う前にコロナを利用することも大事という考えのもと、ICT環境を整え生徒の実態、ニーズに合った教育を中心にされた。
- 愛媛県の公立小学校の話として、タブレットの活用で、学校の業務や授業にICT活用に悩む先生のための先駆者から学ぶトライ＆ラーニングセミナーが開催されている。長年の教師の勘や経験だけではできない仕事がたくさんある。
- 心のやすらぎ、心を深めるにはどうしたら良いかという教育も入ってくる。人間味のある教育をされていて、やはり心がないと思うようにいかない。
- 現場の先生方の授業や何かの活用についてはあくまでツールだと思っている。やはり基本は対面なのだと思う。これはいくらデジタル化が進んできても本来そうあるべきではないか。

- 義務教育の場においては先生方の力というのは、子どもたちの人間力をつけてもらう時に接した大人である。教育というのは、その子を作り上げるうえで基礎になるものである。あくまでも人が基本だという教育を大磯では実施してほしい。
- 教材を作ることに一生懸命になりすぎて、それで時間を取られるようなことになれば本末転倒であるから、既存のソフトで優秀なものがあれば活用してもらえれば良い。
- 今現在は得手不得手がある先生がいると思うので、デジタル教育に関する研修などやっていかななくてはならない。デジタル化も急速に進めるのではなくて、しっかりと段取りを踏みながら、慌てずに研究をしていってほしい。

- 最近のコロナ禍の一つの流れからデジタルというツールが加速して、対面での仕事というのがなくなってきていた。デジタル化は非常に効率的ではあるが、コロナ禍から2年ほど経った今では、当初のオンラインの需要からすると、今度は対面の依頼、直接来て話してほしいという依頼も増えてきている。
- 子どもというのは私たちが見ている以外のものを見ているところもある。教育というのは先生と生徒だけで成立するものではないので、やはり大磯町が教育の基本理念として「いのちと心」、生徒の心が動く環境づくり、ないしはオンラインとの向き合い方を大磯町全体の教育の中で考えていくべきではと思う。

- 持続可能な社会を作っていく子どもたちが、作り手となる子どもたちを育てましょうということでこのデジタルというものは欠かすことのできない、そういう時代に来ている。
- 教育の質を落とさず、尚且つ保護者や社会のニーズに応えるという教育に課せられたものを実現させるのは至難の業である。「もっとこういうのがある」というのがたくさんあれば教員の働き方はかえって長い時間になるという状況になることが懸念される。
- ここから先はデジタルにより相当大きな変化があるだろうし、社会が変わるので学校も変わらざるを得ない、そういう時点に来ている。

2 その他

- 人口減少が思ったよりも早く進んでいるように思う。例えば子どもが少なくなることでより学校が減少するのではないか。大磯町は人口が少し増えているようだが、この先を考えておかなければ教員の働き方改革についてもうまくいかないのではないか。
- 大磯町の広報的な活動、において若い人たちの力をアイデアをどんどん入れていくといいいのではないか。決まった形のPRではなく、若い方の発想により町の魅力をわかってもらえるように検討してはどうか。
- 保護者に向けてのICTによる働き方改革をどう進めていくのかというものがあってもいい。保護者にも学校はICTを導入することによって仕事を削減しながら、この部分は子どもたちへの指導に向けていくんだということも必要なのではないか。
- 職員室が従来の縦型、いわゆる管理職が隅にいて先生たちが縦型で座っている。コミュニケーションスペース、あるいはリフレッシュスペースを作り、授業でのICT機器の活用方法など普段から話ができるような職員室づくりをしていただきたい。